

## 被爆者とともに一核兵器のない平和で公正な世界を 原水爆禁止 2020 年世界大会への参加と賛同のよびかけ

2020 年 2 月 17 日

原水爆禁止世界大会実行委員会第 85 回総会

広島と長崎の被爆から 75 年、ことし 8 月 2 日から 9 日まで、私たちは「被爆者とともに一核兵器のない平和で公正な世界を」をテーマに、広島と長崎の二つの都市で原水爆禁止 2020 年世界大会を開催します。

大国の横暴を許さず、核兵器の禁止、平和、地球環境を守る市民や若ものの行動が広がる中で、2020 年世界大会は、核兵器廃絶の課題に広範な人々の要求をつなげ、共同の力で未来を拓く画期的な大会となるでしょう。内外のみなさんが、この呼びかけに賛同し、大会への参加や代表の派遣を準備され、また、それぞれの国や都市、地域で大会に連帯する多彩で創意的な行動を計画されるようよびかけます。

2020 年世界大会は、1955 年に始まる原水爆禁止世界大会の歩みに照らして、歴史的な意義を持つ大会になろうとしています。

核大国はいま、国連憲章の平和のルールやすでにみずからも受け入れた核兵器廃絶の「明確な約束」など、多くの合意を無視して、新たな核兵器の開発・配備、条約からの離脱など横暴な行動を続けています。

しかし、核兵器の廃絶は、20 世紀の二つの世界大戦の惨害から世界が次の時代の原点として定めた目標であり、もはや逆転を許さない世界の大勢です。

2017 年、国連が採択した核兵器禁止条約には、大国の反対や圧力にも拘らずすでに 81 の国々が署名、35 カ国が批准し、昨年 12 月の国連総会では、加盟国の 3 分の 2 に迫る 123 カ国が、条約促進の決議に賛成票を投じました。

ことし 4 月、2020 年核不拡散条約 (NPT) 再検討会議の前夜、私たちは反核平和運動をはじめ世界の多様な運動と力を合わせ、「核兵器廃絶、気候危機の阻止と反転、社会的経済的正義のために」をテーマに、原水爆禁止世界大会・ニューヨークを開催します。日本の原水爆禁止運動を代表する日本被団協、原水禁国民会議、日本原水協の 3 団体がよびかけに加わっていることに励まされています。

大会は、日本の運動が掲げ続けた核戦争阻止、核兵器全面禁止廃絶、被爆者援護・連帯を第一の目的とし、核兵器禁止条約発効の流れを加速させるとともに、核保有国に対しても核軍備競争の停止、核軍備の撤廃など条約第 6 条の措置や核兵器廃絶に関わるこれまでの合意と約束の実行を求める世界世論の結集の場となるでしょう。また、大会は、核兵器廃絶の運動と、地球環境や世界的な社会的経済的格差の克服、ジェンダー平等など多様な運動との連帯と合流の場となるでしょう。

核兵器のない世界の実現に向けて、日本の市民社会と運動には、大きな期待が寄せられています。日本政府はいま、日本国憲法と国民の願いに反してアメリカの核戦略を支持し、核兵器禁止条約に反対して世界の人々を失望させています。しかし、核兵器の禁止・廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」にすでに 1 千万を超える人々、全国の 7 割を超える自治体首長が署名し、世論調査では回答者の 65.9% が日本は核兵器禁止条約に参加すべきと答えていることにみられるように、国民の多くは、日本が禁止条約に加わることを求めています。この世論をさらに大きく広げ、核兵器禁止条約発効の先頭に立つ日本を実現しなければなりません。

2020 年世界大会は、いま取り組まれているこれらすべての運動を結集し、被爆者とともに核兵器のない世界への次のとびらを開く、活気に満ちた大会になるでしょう。

すべての地域でのヒバクシャ国際署名、間近に迫った 3・1ビキニデー、4 月の世界大会・ニューヨーク、5 月に始まる原水爆禁止国民平和大行進など一つ一つの取り組みで共同と多様な諸運動との連帯を広げ、8 月、広島、長崎へ、職場、地域、学園からの代表派遣に取り組みましょう。